

## 7-6 施工直前での設計ミスが発覚

### 1. 立場と仕事

建設コンサルタント会社に入社後は、橋梁などの設計業務に従事していた。

入社後 10 年がたち、経験や実績をつみ、業務の主担当の技術者として、設計全般にかかわるようになっていた。

駅前広場にある既設の歩道橋に、集客施設と連絡をする新設の歩道橋の設計業務を受注し、主担当者として従事し、業務の成果を納品した。

### 2. 遭遇した事態

実施した設計では、工事を急ぐ事情もあり、発注者の意向から新たに測量は行わず、地形図に既設の横断歩道橋の竣工した図面を重ね合わせた図面を使用し、設計を行っていた。

設計成果をもとに、歩道橋設置の工事が発注され、施工会社が工事着手に向け現地で測量を行っていたところ、既設の歩道橋において、設計時に使われていた位置と現地の位置にずれが生じていることが判明し、発注者から確認依頼の連絡を受けた。

確認した結果、CAD 操作時のミスであることが判明した。

### 3. 対応内容とその結果

施工会社では、現地の測量とあわせ、工事で使用する材料を手配する準備を行っている段階にあった。

設計成果どおりの材料が手配・制作された場合、その材料が使えなくなり、手戻りに伴う損害を請求される可能性もあり、材料手配や工事工程に影響を生じないよう対応する必要が生じた。

このため、対応に向けた体制を早急に構築し、その手順や工程を発注者や施工会社と調整しながら実施する必要があった。

ミスの修正にあたっては、施工会社で考えていた施工手順や工程を確認し、その工程にあわせた対応を行うことが重要と考え、部長や管理技術者とも相談・確認し、自らが想定していた工程との乖離が生じていないかを早期段階で確認・合意し、工程上のコントロールを明確にした。

あわせて、施工会社の都合や事情も踏まえ、提出する図面や計算書などの提出時期を個別に確認し、作業手順を設定した。

修正・提出したものが、即現場で使われるため、再度ミスが生じないよう、チェック体制を強化し、品質の確保にも留意した。

この経験を通し、発注者・施工者など関係者との現状に即した調整・対応、修正する成果に対する品質確保が重要であることが認識できたと考えている。